

# 柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

平成14年（2002）年度

平成15（2003）年3月

柏原市教育委員会

## はしがき

ここ数年、柏原市においては発掘調査の件数が減少しています。主とした理由は、過去20年以上継続してきた調査により市内遺跡の実態がおよそ把握できてきたことと、遺跡に影響を及ぼすような大規模開発が減少したことによる。一時期の発掘調査件数の多さは記録保存の名の下で消えていった遺跡の多さを表すものでもあり、調査に明け暮れた日々が今となってはまるで嘘のようで隔世の感があります。

一方、こうした現状は埋蔵文化財にのみ傾注していた姿勢からの脱却を求めていいるものと思います。文化財保護法で定義され謳われている文化財は多種多様です。全ての文化財を保護するという本来有るべき姿に近づく好機でもあると言えるでしょう。また普及活用の充実という点では学校教育や生涯教育との密な連携も必要です。

今のような世の中であるからこそ、私たちの果たす役割はより重要なものと認識しています。今まで以上にご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成15年3月

柏原市教育委員会  
教育長 舟橋清光

## 例　　言

- 1、本書は柏原市教育委員会が平成14年度に国庫補助事業（総額1,200,000円、国補助率50%、市負担率50%）として計画し、社会教育課文化係が実施した柏原市内遺跡群緊急発掘調査概要報告書である。
- 2、調査は柏原市教育委員会社会教育課 安村俊史、桑野一幸、石田成年を担当者とし、平成14年4月1日に着手し、平成15年3月31日に終了した。
- 3、本書には平成14年1月1日から同年12月31日までに着手した土木工事に伴う事前発掘調査のうち15件の概要とその他の調査の一覧を掲載した。なおこの期間内に文化財保護法第57条の2および3に基づく届出、通知がなされたものは274件、その中で発掘調査を実施したものは23件、国庫補助事業として実施したものは15件である。
- 4、本書の編集は石山が担当し、執筆は調査の各担当者がこれに当たった。
- 5、調査、整理の参加者は次のとおりである。（順不同、敬称略）

柳谷 好子 山本 俊博 北野 重 寺川 欽 分才 降司 堀 定夫  
柳川 澄雄 金谷 健 横原美智子 阪口 文子 乃一 敏恵 橋口 紀子

# 目 次

平成14（2002）年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧	
第1章 大県遺跡.....	1
2002- 2次調査.....	2
第2章 安堂遺跡.....	3
2002- 1次調査.....	4
第3章 安堂廃寺.....	5
2002- 1次調査.....	6
第4章 卡手山遺跡.....	11
2002- 1次調査.....	12
2002- 2次調査.....	13
第5章 原山遺跡.....	14
2002- 2次調査.....	15
2002- 3次調査.....	15
2002- 4次調査.....	16
第6章 原山廃寺.....	17
2002- 1次調査.....	18
第7章 円明遺跡.....	19
2002- 1次調査.....	20
第8章 田辺遺跡.....	21
2002- 1次調査.....	22
2002- 2次調査.....	23
2002- 3次調査.....	24
2002- 4次調査.....	25
2002- 5次調査.....	26

## 平成14(2001)年度 柏原市内遺跡群発掘調査一覧

遺跡名 (次数)	対象地 (柏原市・・・)	対象面積調査面積 (m <sup>2</sup> )	申請者	用途	担当	調査日 (開始終了)	文書番号 (柏教文)	備考
大県 2002- 1	大県4-10-15	498.00	4.50	個人	共同住宅	桑野 H14. 9. 26 H14. 9. 27	141-26	
大県 2002- 2	平野1-96-19他	107.49	1.44	個人	個人住宅	石川 H14.10.10 H14.10.10	141-24	本書P2
安堂 2002- 1	安堂町338-14	63.32	2.30	個人	個人住宅	安村 H14. 2.19 H14. 2.19	141- 9	本書P4
安堂 2002- 2	安堂町969-1の一部他	988.35	8.50	山本	共同住宅	桑野 H14. 7. 3 H14. 7. 5	141-19	
安堂魔寺 2002- 1	安堂町628の一部	420.60	5.00	個人	個人住宅	安村 H14. 1. 9 H14. 1. 10	131-25	本書P6
平尾山古墳群 2002- 1	雁多尾堀2208-6他	8859.79	12.00	柏羽藤 環境事業組合	処分場	石川 H14. 6. 21 H14. 6. 28	141-18	
玉手山 2002- 1	片山町2-10他	92.47	2.30	個人	個人住宅	安村 H14. 2.18 H14. 2.18	141-11	本書P11
玉手山 2002- 2	片山町1-19	227.83	2.00	個人	個人住宅	安村 H14. 3.14 H14. 3.14	141-12	本書P12
玉手山 2002- 3	円明町217-116	846.23	4.00	星隈	宅地造成	石田 H14. 4. 5 H14. 4. 5	141-13	
玉手山 2002- 4	旭ヶ丘1-569-3他	2361.67	67.00	巽住宅	共同住宅	桑野 H14. 9. 4 H14. 9. 6	141-16	
玉手山 2002- 5	片山町139-3	165.12	2.25	池端	診療所	桑野 H14.10.24 H14.10.24	141-25	
原山 2002- 1	旭ヶ丘3-1071-2他	118.48	0.50	浪建住販	分譲住宅	石田 H14. 1.29 H14. 1.29	141- 6	
原山 2002- 2	旭ヶ丘3-1067-25	96.59	2.25	個人	個人住宅	桑野 H14. 8. 1 H14. 8. 1	141-21	本書P14
原山 2002- 3	旭ヶ丘3-1067-17	93.78	2.25	個人	個人住宅	桑野 H14. 8. 2 H14. 8. 2	141-20	本書P14
原山 2002- 4	旭ヶ丘3-1081-7	243.57	2.56	個人	個人住宅	石田 H14.12. 2 H14.12. 2	141-27	本書P15
原山魔寺 2002- 1	旭ヶ丘3-9-4	83.43	1.50	個人	個人住宅	石田 H14.12. 3 H14.12. 3	141-28	本書P17
円明 2002- 1	円明町450	148.00	1.00	個人	個人住宅	石田 H14.10.28 H14.10.28	141-23	本書P19
田辺 2002- 1	田辺2-2080-55	85.78	2.30	個人	個人住宅	安村 H14. 2. 6 H14. 2. 6	141- 7	本書P21
田辺 2002- 2	国分市場1-1611	228.88	4.50	個人	個人住宅	安村 H14. 2.15 H14. 2.15	141- 2	本書P22
田辺 2002- 3	田辺1-2050-7他	143.12	2.30	個人	個人住宅	安村 H14. 3. 5 H14. 3. 5	141-14	本書P23
田辺 2002- 4	国分本町7-1969-2他	233.82	2.30	個人	個人住宅	安村 H14. 3.20 H14. 3.20	131- 6	本書P24
田辺 2002- 5	田辺1-2027-4	686.53	1.44	個人	個人住宅	石田 H14.12.20 H14.12.20	141-30	本書P25
譽田山古墳群 2002- 1	旭ヶ丘4-4986-170他	2509.68	2.00	養心会	グループホーム	石田 H14. 2.27 H14. 2.27	141- 8	

(平成14年1月1日から12月31日までに実施した調査)

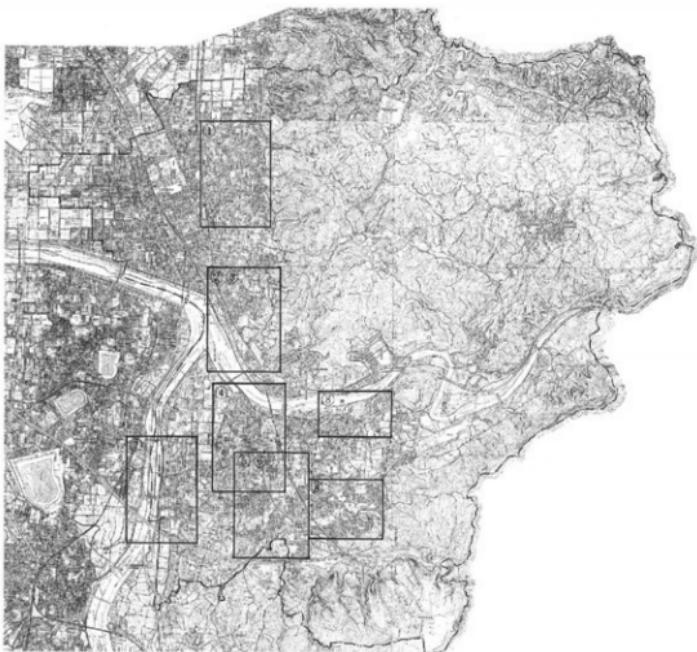
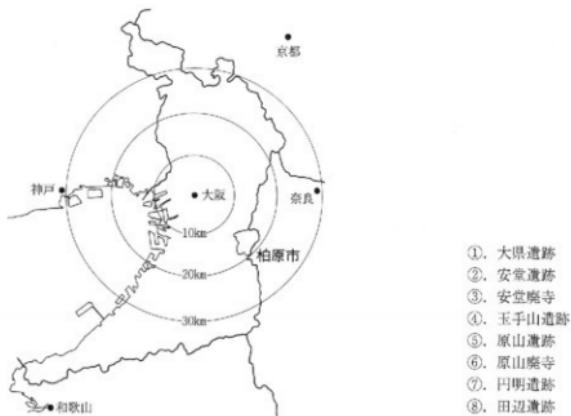


図-1 柏原市位置図

## 第1章 大県遺跡



図-2 大県遺跡調査対象地位位置図 (S = 1 / 5000)

## 2002—2次調査

- ・調査対象地 柏原市平野 1-96-19、96-23、96-26
- ・調査期間 平成14（2002）年10月10日
- ・調査面積  $1.0\text{m}^2 / 107.49\text{m}^2$
- ・調査担当者 石山成年

対象地は大県遺跡の西北隅にあり、大県郡条里遺構の東南端にも接する。高尾山から西に派生する支尾根の一つの南に立地し、すぐ西を恩智川が北流する。

対象地の東南隅に100cm四方の調査区を設定し、建築予定建物の基礎掘削深度である現地表下50cmまで人力により掘削した。全て盛土であり、下層に見える青灰色の砂質土も盛土と思われる。

遺構、遺物とも認められず、写真撮影後埋め戻し、調査の終了とした。

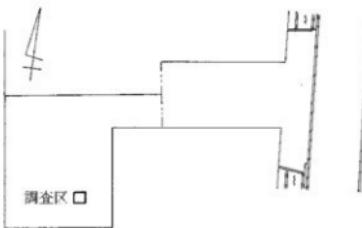


図-3 調査区位置図 ( $S = 1/400$ )

## 第2章 安堂遺跡



図-4 安堂遺跡調査対象地位置図 ( $S = 1/5000$ )

## 2002--1次調査

- ・調査対象地 柏原市安堂町19-5
- ・調査期間 平成14（2002）年2月19日
- ・調査面積  $2.3\text{m}^2 / 63.32\text{m}^2$
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は安堂遺跡の南東部に位置し、安堂遺跡2001-4次調査地の3軒東側にある。南側は急な崖面となっており、二宮神社の位置する平坦面に至る。

調査は、調査対象地の南端に、1.5m四方の調査区を設定して実施した。上層の明褐色砂礫土・褐色砂礫土はよく締まっており、遺物は認められない。既設建物建築のための造成に伴う土層であろう。その下層、西半には褐色粘質土がみられる。この層からは瓦器が出土しており、中世の遺物包含層と考えてよいであろう。土層の堆積状況からは、遺構の可能性も考えられる。その下層の灰色シルトからは6～7世紀の須恵器・土師器が出土している。この層は、調査区中央部にのみみられ、西側へさらに深くなっているようである。最下層には灰色砂質土がみられるが、調査範囲内では、この層からは遺物が出土していない。この付近は湧水面が浅く、2001-4次調査地と同様に、今回の調査地も粘性の高い土層に、わずかながら湧水がみられる。

これまでの周辺の調査と同様に、6～7世紀の遺物が出土した。おそらく、南東側崖面の上、二宮神社の位置する平坦面に、同時期の集落が存在するのである。また、褐色粘質土からは中世の遺物が出土しており、遺構の可能性も考えられる。今後の周辺部の調査に注目していく必要があるだろう。

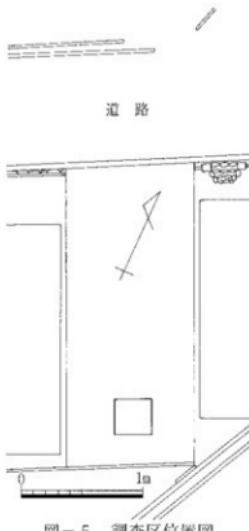


図-5 調査区位置図

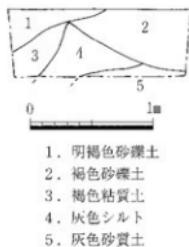


図-6 北壁土層略図

### 第3章 安堂廃寺



図-7 安堂廃寺調査対象地位置図 ( $S = 1/5000$ )

## 2002-1次調査

- ・調査対象地 柏原市安堂町628の一部
- ・調査期間 平成14（2002）年1月9日～1月10日
- ・調査面積  $5.0\text{m}^2 / 420.60\text{m}^2$
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、軒丸瓦が多数出土した安堂遺跡84-1次調査地から、道路をはさんで南東に位置し、安堂廃寺の推定寺域の南東部にある。安堂廃寺は『統日本紀』に記載がみられる家原寺に相当すると考えられており、これまでの出土軒丸瓦から、創建は飛鳥時代後期と考えられる。84-1次調査地の西側からは、かつて塔心礎が出土したということである。今回の調査地である巽克郎氏宅の前庭にも礎石が置かれている。

今回の調査対象地は、この巽氏宅の西半にあたり、これまで建っていた離れを解体し、住居を新築するという計画であった。この離れは木造二階建で、明治初期に建築されたようである。建築後100年以上になるうえ、その造作を見るべきものがあったので、解体に先立って、巽氏のご厚意により建物内部を観察させていただき、簡単な記録を作成した。

建物は食い違いの四間取りで、それぞれ10畳、8畳、8畳、6畳となり、南西の6畳の部屋は仏間となっている。北西の10畳間には、2.5間幅の床の間があり、縁側にはみだして書院棚が造られている。北・東・南の三方には縁側が巡る。縁側の隅は、板が互い違いになるように組まれており、板材の縦目は鋸歯状に仕上げられている。欄間の彫刻やガラス戸も非常に手のこんだものであり、明治の職人の心意気を見る思いがする。家屋の痛みが激しいため、残念ながら2階は観察することができなかった。

母屋は後に新築されたため、古い建物ではないが、門構えは厚い樺の板戸を使用した立派なものであり、門の両脇には土蔵が建てられている。いわゆる長屋門風の門である。母屋の奥にも土蔵があり、手入れの行き届いた前庭には、2個の礎石が置かれている。

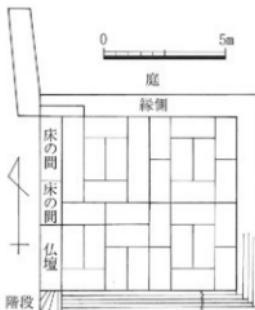


図-8 巽家旧宅間取り略図



写真 巽家旧宅



図-9 調査区位置図

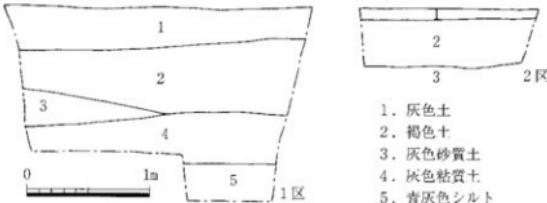


図-10 1・2区南壁土層略図

調査は、調査対象地の南西部、浄化槽予定地に $1.1 \times 2.5\text{m}$ の調査区を設定し、これを1区とし、建物予定地の北東部に $1.5\text{m}$ 四方の調査区を設定し、これを2区とした。

1区では、地表下 $25\sim35\text{cm}$ に灰色土がみられ、その下層には $35\sim65\text{cm}$ の褐色土がみられる。褐色土からは、中世の土師器小皿（4）が出土しており、7世紀代の土師器・須恵器片もみられるが、近代の物も混ざっており、おそらく明治初期の離れ造成に伴う盛土であろう。その下層には調査区東半部にのみ厚さ $30\text{cm}$ 以下の灰色砂質土がみられる。灰色砂質土からは瓦器碗（5）とともに、土師器・須恵器・磁器片が出土しており、中世から近世にかけての堆積土で、上面は近世の耕作面となると考えられる。その下層、灰色粘質土は $40\text{cm}$ 前後の厚さがあり、複弁八葉蓮華文軒丸瓦（6）や平瓦（7・8）が出土しているが、中世の土師質土釜片も出土しており、おそらくこの上面が、中世の耕作面となるのであろう。

調査区西端で一部を掘り下げたところ、地表下 $120\sim130\text{cm}$ で青灰色シルトに至り、この土層からは激しい湧水がみられたため、これ以上の掘り下げを断念した。なお、調査範囲内においては、青灰色シルトからは遺物は出土していない。

2区では、地表下 $10\text{cm}$ 前後まで非常に堅く締まった灰色土がみられる。この位置は、調査前に建っていた離れの部分にあたり、離れの建築に伴う整地土と考えられる。この層からは、小片ではあるが、多数の土師器・須恵器が出土しており、その大半が7世紀代のものである（1～3）。離れを建築する際に、どこからか持ち込まれた土であろう。その下層には褐色土がみられ、1区と同様の状況である。地表下 $50\text{cm}$ 前後で灰色砂質土に至り、掘削はここまでで終了した。

以上の状況から、灰色粘質土は安堂廃寺の瓦を含む層で、その上面が中世の耕作面、その上の灰色砂質土は中世の遺物を含み、その上面が近世の耕作面、その上の褐色土は明治初期の離れ建築に伴う盛土、灰色土は整地上と考えてよいだろう。安堂廃寺の構造面は、青灰色シルトよりもさらに下層にあるものと考えられ、現地表からは $170\text{cm}$ 以上の深さに存在するものと考えられる。

遺物は土師器・須恵器・瓦器・陶磁器・瓦などが出土地している。1～3の須恵器は2区灰色土から、土師器小皿（4）は1区褐色土から、瓦器碗（5）は1区灰色砂質土から、瓦（6～8）は1区灰色粘質土から、瓦（9）は1区耕土から、それぞれ出土している。

須恵器壺蓋（1）は口径 $10.3\text{cm}$ で内面にかいりを有する。壺蓋（2）は口径 $16.6\text{cm}$ で内面にぶいかいりを有する。壺身（3）は高台部のみを残す。高台端部は丸みをもち、比較的高い。

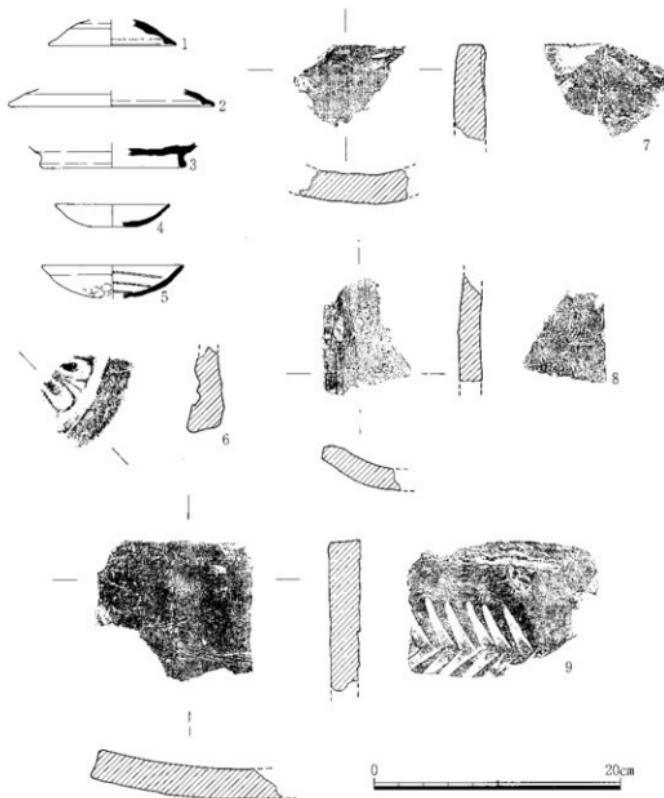


図-11 出土遺物

土師器小皿（4）は口径9.2cm、器高1.85cmに復元できる。内外面ともナデで仕上げる。瓦器輪（5）は浅く、高台を伴わないものである。内面には間隔の広いラセン状の暗文がみられ、外面にはユビオサエが顕著に残る。

軒丸瓦（6）は複弁八葉となり、細い間弁を伴う。外区は斜線となり、素文である。瓦当直径は18.4cm、瓦当厚は1.8cm、外区幅2.0cm、外区高さ0.7cm、内区径12.6cmと復元できる。全体に磨滅がみられ、瓦当裏面には丸瓦部の剥離痕がある。色調は灰褐色を呈し、石英・長石・雲母・チャート等の砂粒を含んでいる。84-1次調査の際の安堂廐寺V類に相当すると考えられ、そうなると、中房には1+8の蓮子を伴うはずである（『柏原市埋蔵文化財発掘調査概報 1984年度』）。

平瓦（7）の凸面には叩きの痕跡はみられず、ケズリの後にナデを施して、叩き痕を消している

ようである。凹面は10本/cmの布目を残し、幅2.2cmと2.6cmの模骨裏が確認できる。端面から凹面にかけてはケズリの後のナデで仕上げている。色調は灰褐色、石英・長石・雲母等の砂粒を含む。平瓦（8）は、凸面に4本/cmの裡目叩きを施した後に、これをナデ消している。凹面には8本/cmの布目がみられ、側縁は3回のヘラケズリによって、分割痕を消している。色調は淡灰色を呈する。7・8はともに桶巻作りと考えられる。

平瓦（9）は近世の井戸枠に使用されたものであろう。凸面・凹面ともにナデで仕上げられるが、凸面にはくさび状の叩きが横方向に、深く施されている。端面はケズリ調整。灰色を呈し、焼成は良好である。

前庭には、2個の礎石が確認できるが、離れ北側にあった礎石が調査中には工事の関係で埋められていたため、門を入ってすぐ左手にある礎石1個を実測し、ここで紹介しておく。礎石は円座を造り出したものであり、円座の直径は70cm、高さは1.5cmを測る。礎石の周囲は円座を残すように削られていると考えられる。そのなかで、北西部分、図の左下にあたる部分は平滑な面となっており、本来の加工面を残していると考えられる。もしかすると、方形の礎石であったのかもしれない。その他の部分は、すべて後世に打ち欠かれている。おそらく、礎石の移動に際して、軽量化を図るために打ち欠かれたのであろう。石材は花崗岩で、表面は黒灰色に若干風化している。84-1次調査の際に出土した礎石も同様に円座を造り出したものであるが、円座の直径が60cmであり、巽氏宅の礎石のほうが、やや大きい。いずれにしても、安堂廃寺に伴う礎石と考えて問題ないであろう。

今回の調査では、安堂廃寺に伴う遺構を確認できなかった。安堂廃寺の遺構面は、予想以上に深いようである。遺構面が良好に残っている可能性を示すものもある。瓦の出土から、この近辺に寺院跡が存在したことは間違いないであろうが、今後の調査に委ねることにならざるをえない。

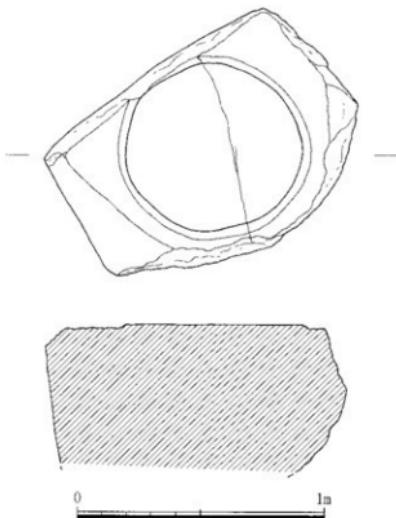


図-12 紋石

## 第4章 玉手山遺跡

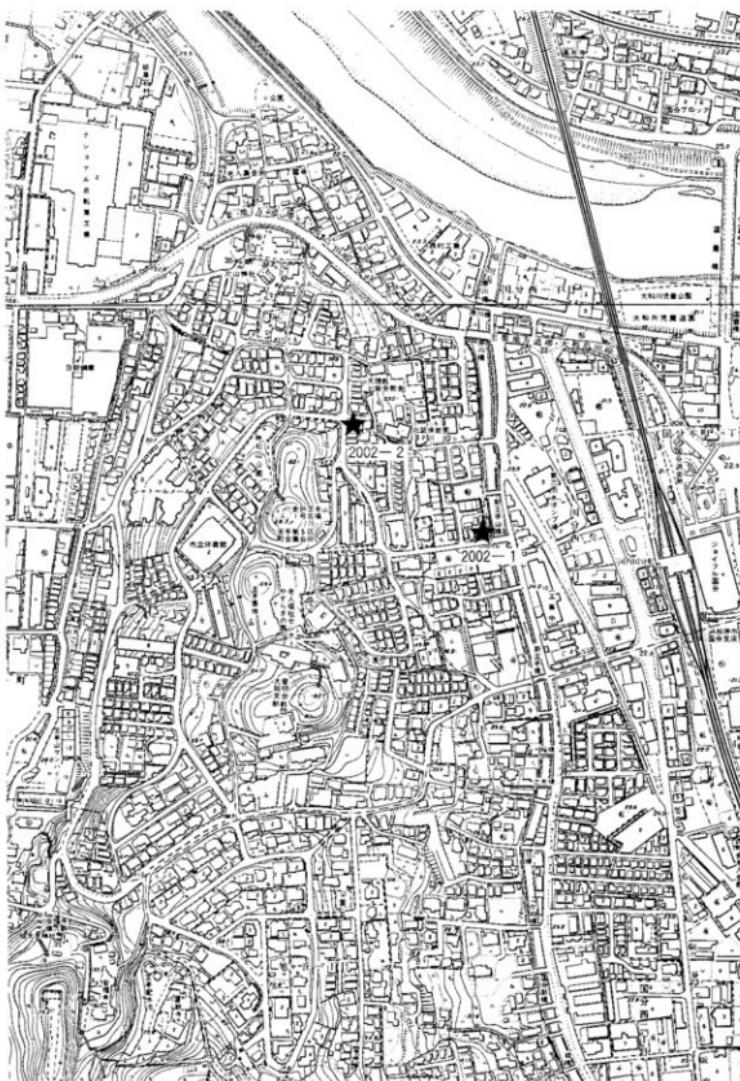


図-13 玉手山遺跡調査対象地位置図 ( $S = 1 / 5000$ )

## 2002-1次調査

- ・調査対象地 柏原市片山町1-30
- ・調査期間 平成14(2002)年2月18日
- ・調査面積  $2.3\text{m}^2 / 92.47\text{m}^2$
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は玉手山遺跡の東縁部に位置し、すぐ東側に原川が流れている。原川に隣接するため、遺構が存在するとしても遺構面は深いだろうと想像されたが、計画では2mを掘削するベタ基礎であったため、確認調査を実施することにしたものである。

調査は、調査対象地の南東部に1.5m四方の調査区を設定して実施した。調査の結果、地表下70~150cmで黄褐色砂礫土の地山に至る。地山は東側へ大きく落ち込んでいる。地山直上にビニールや針金などがみられ、地表まで褐色土1層のみである。遺構・遺物は認められなかった。

おそらく、原川に臨む傾斜地を、一旦地山まで削平するような造成を行なった後、再び厚い盛土を施すような造成が行なわれた結果であろう。おそらく、既設建物の建築に伴う造成であろう。

調査前の予想よりも浅い部分で地山が確認されたが、地山の削平を伴うような造成がなされていることが確認され、遺構・遺物がこの付近にまでひろがっているかどうかについては確認できなかつた。

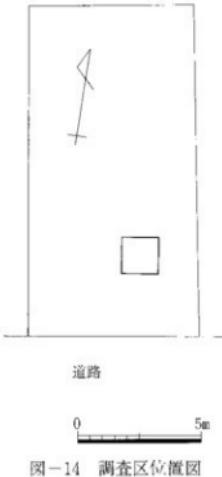
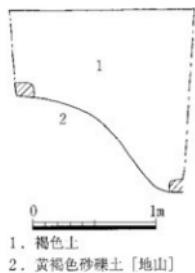


図-14 調査区位置図



1. 褐色土  
2. 黄褐色砂礫土[地山]

図-15 北壁土層略図

## 2002-2次調査

- ・調査対象地 柏原市片山町1-19
- ・調査期間 平成14(2002)年3月14日
- ・調査面積 2m<sup>2</sup>/227.83m<sup>2</sup>
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、玉手山丘陵北端近くの東斜面に位置する。調査地の南西部は道路を隔てて、玉手山1号墳の前方部にあたり、標高は40m強である。

調査地には重量鉄骨の建物が建っていたため、その建築時、および解体時に大きく搅乱されており、旧状を残す部分は少なかった。そこで、旧状を残していた調査対象地の南東部に1×2mの調査区を設定して調査を実施した。なお、上層の掘削には、建物の解体に従事していた重機の提供を受けた。

調査によって、地表下1mまで掘り下げたが、すべて淡褐色土の単一層であった。おそらく、既設建物建築前の造成に伴う盛土であろう。建築予定の建物の基礎深度が30cm前後であるため、これ以上の掘り下げは行なわなかった。当然のことながら、遺構・遺物は認められなかった。

当初の予想以上に既設建物の基礎が深く、地下は完全に搅乱されているようである。

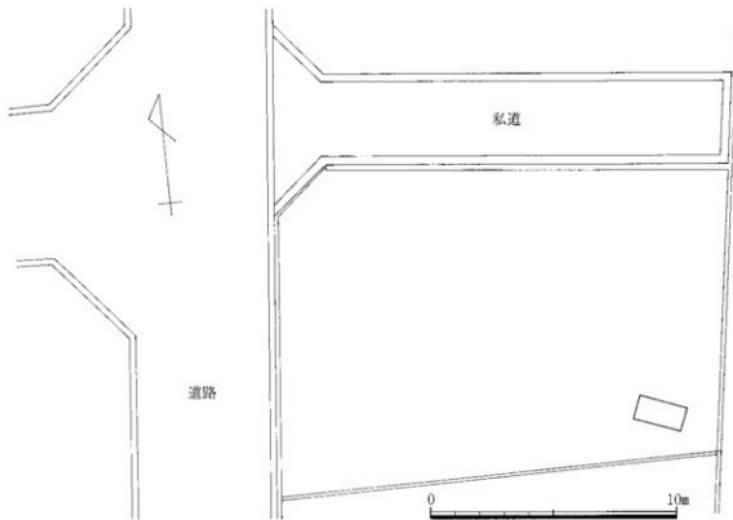


図-16 調査区位置図

第5章 原山遺跡

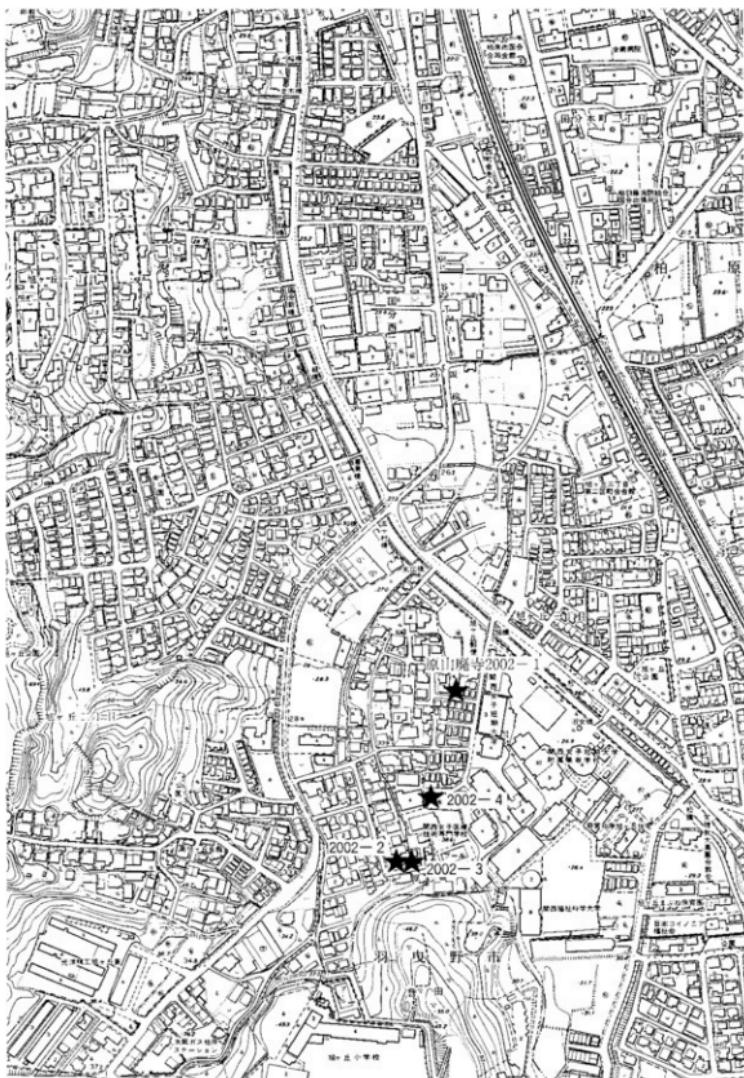


図-17 原山遺跡調査対象地位置図 (S = 1/5000)

## 2002-2次調査

- ・調査対象地 柏原市旭ヶ丘3-1067-25
- ・調査期間 平成14(2002)年8月1日
- ・調査面積  $2.3\text{m}^2 / 96.59\text{m}^2$
- ・調査担当者 桑野一幸

調査地は原山遺跡の南西隅部にあたり、南から北に張り出す台地の西斜面に位置し、2001-1次調査地の隣接地である。調査は対象地の南東隅部に1.5m四方の調査区を設定して実施した。地表下およそ40cmで地山に達したが全て盛土であり遺物、遺構は認められなかった。なお地山は花崗岩の小礫を混じた茶灰色粘土である。

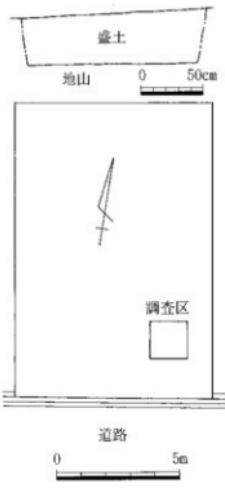


図-18 調査区の位置と土層

## 2002-3次調査

- ・調査対象地 柏原市旭ヶ丘3-1067-17
- ・調査期間 平成14(2002)年8月2日
- ・調査面積  $2.3\text{m}^2 / 93.78\text{m}^2$
- ・調査担当者 桑野一幸

調査地は2002-2次調査地の東隣にあたる。調査は対象地の南西隅部に1.5m四方の調査区を設定して実施し、地表下およそ80cmまで掘削したが全て盛土であり遺物、遺構は認められなかった。

2次調査地、3次調査地とも東に高い斜面地に位置しており、旧地形が遺存していれば東に位置する3次調査地でも地山が確認される筈であるが、それが確認されなかったという調査結果が示すように、調査地周辺ではかなり地形の改変を受けているように思われる。

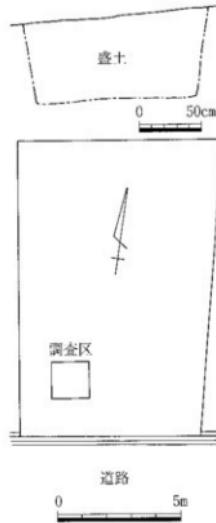


図-19 調査区の位置と土層

## 2002-4次調査

- ・調査対象地 柏原市旭ヶ丘3-1081-7
- ・調査期間 平成14(2002)年12月2日
- ・調査面積  $2.6m^2 / 243.57m^2$
- ・調査担当者 石田成年

対象地は学校法人玉手山学園の敷地に隣接する。学園内では施設拡充に伴う発掘調査が過去に実施され、古墳時代の堅穴住居、飛鳥時代・奈良時代の建物等が検出された<sup>1)</sup>。飛鳥時代の遺構は原山庵寺創建以降のもので、原山庵寺に伴う集落の広がりが知れる資料である。対象地においても同様の遺構の検出が予想された。

現状は駐車場で表土はバラス混じり。対象地の南西端に160cm四方の調査区を設定した。人力により20cm掘削し、表土直下15cmでぶい黄澄(10YR5/8~10YR4/1)色を呈する礫混じりの地山を検出した。その途上において遺構、遺物とも認められなかった。こうした状況から旧地形を窺い知る痕跡も認められないほどの削平を受けているものと判断し、写真撮影後、埋め戻した。

- 1)『柏原市所在遺跡発掘調査概報  
1984年度(1984-II)』  
『原山遺跡(1988-VI)』  
『柏原市遺跡群発掘調査概報  
1991年度(1991-IV)』

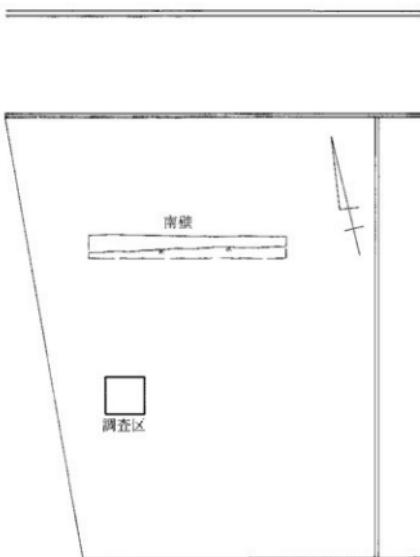


図-20 調査区位置図 ( $S = 1/200$ )

## 第6章 原山廃寺

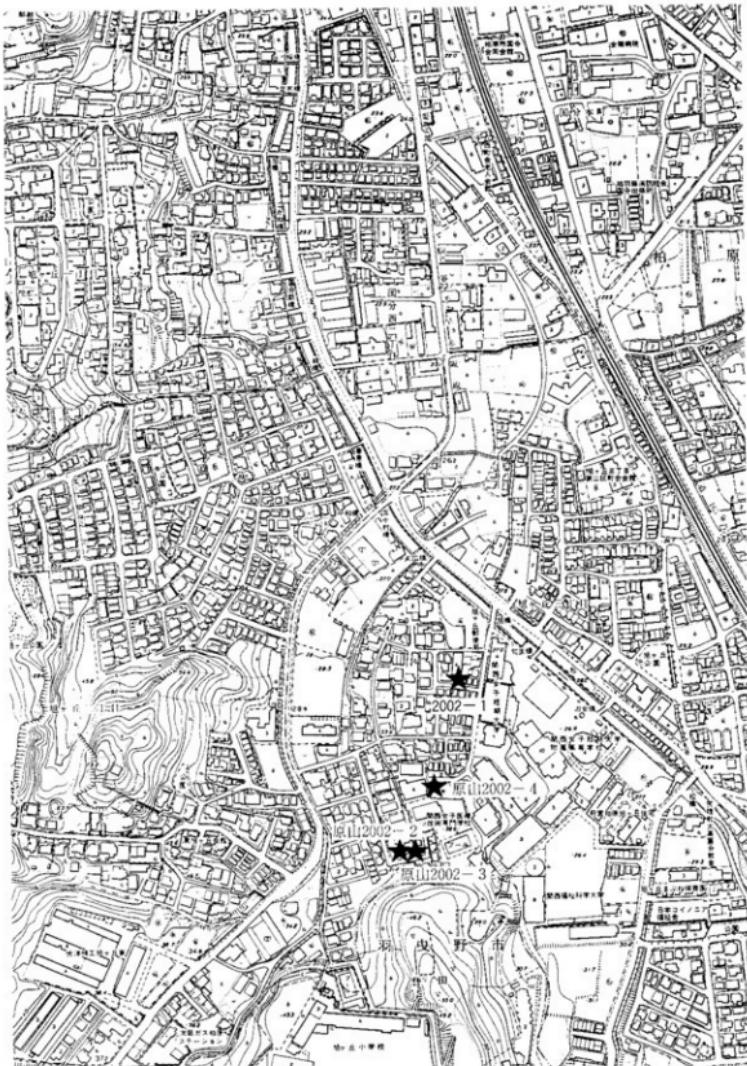


図-21 原山廃寺調査対象地位置図 ( $S = 1/5000$ )

## 2002-1次調査

- ・調査対象地 柏原市旭ヶ丘3-9-4
- ・調査期間 平成14（2002）年12月3日
- ・調査面積  $1.5\text{m}^2 \times 83.43\text{m}^2$
- ・調査担当者 石田成年

現状は宅地で既設住宅の撤去後に調査に着手した。対象地の西北隅に東西150cm、南北100cmの調査区を設定し、人力により現地表下40cmまで掘削した。表土直下は従前の建物に伴う盛り土。基礎掘削深度までの確認に留め、写真撮影後、埋め戻した。遺構、遺物とも認められなかった。

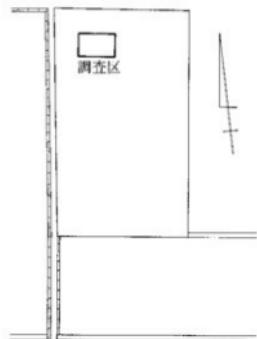


図-22 調査区位置図 ( $S = 1/200$ )

## 第7章　円明遺跡



図-23　円明遺跡調査対象地位置図（S = 1 / 5000）

## 2002-1次調査

- ・調査対象地 柏原市円明町450
- ・調査期間 平成14（2002）年10月28日
- ・調査面積  $1.0\text{m}^2 / 148.00\text{m}^2$
- ・調査担当者 石田成年

対象地の中央に100cm四方の調査区を設定し、  
人力により現地表下50cmまで掘削した。すべて從  
前の建物に伴う盛り土であり、遺構、遺物とも認め  
られなかった。建物基礎掘削深度に達したため、  
下層の追求はしなかった。

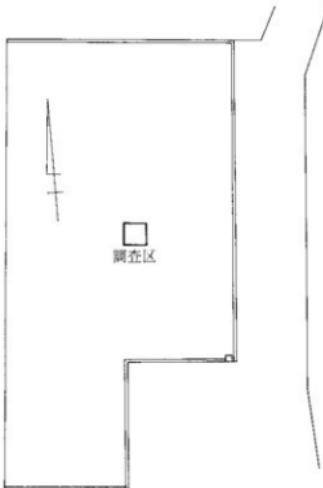


図-24 調査区位置図 ( $S = 1 / 200$ )

## 第8章 田辺遺跡



図-25 田辺遺跡調査対象位置図 (S = 1 / 5000)

## 2002-1次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺2丁目2080-55
- ・調査期間 平成14(2002)年2月6日
- ・調査面積  $2.3\text{m}^2 / 85.78\text{m}^2$
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、田辺丘陵の南東部、春日台と呼ばれる地に位置する。過去に大規模な造成がなされているが、周辺には旧地形を残す部分もみられるため、確認調査を実施することにした。

調査は、調査対象地の北寄りに、1.5m四方の調査区を設定して実施した。10~30cmの厚さの表土を除去すると、すぐに淡黄褐色、または淡褐色粘質土の地山に至る。地山面を精査したが、何ら遺構は確認できなかった。

さらに、調査地北端で、幅40cmの範囲を深さ40cmまで掘り下げた。これは地山であることの確認と、田辺丘陵では旧石器の出土が知られているため、その有無を確認するためである。掘り下げた結果、礫や砂を比較的多く含む粘質土で、段丘層と判断できた。遺物はまったく出土していない。以上のような結果であったため、これ以上の拡張、掘り下げは行なわなかった。過去の造成の際に、地山まで削平を受けているようである。

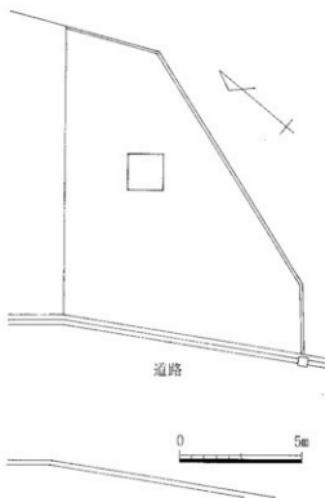


図-26 調査区位置図

## 2002-2次調査

- ・調査対象地 柏原市国分市場1丁目1611
- ・調査期間 平成14(2002)年2月15日
- ・調査面積  $4.5\text{m}^2 / 228.88\text{m}^2$
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は田辺遺跡の北端部に位置し、北100mには大和川が流れている。周辺では、これまでにも僅かながら遺物の出土などをみている。また、北東部の高台には、古墳時代前期の松岳山古墳群が展開している。

調査は調査対象地の北端部に1.5m四方の調査区を設定し、これを掘り下げたところ、地表下40cmで最近の石組み暗渠にあたり、調査区内に本来の土層が残っていないことが確認された。暗渠は東西方向に流れしており、道路側溝につながっている。

そのため、そこから2.6m南側に新たに1.5m四方の調査区を設定した。前者を1区、後者を2区とする。2区では地表下50cmまで掘り下げたが、灰褐色土がみられるのみである。灰褐色土からは近世の陶磁器、巴文軒丸瓦、寛永通寶と思われる古銭とともに、7世紀代と考えられる土師器高坏の脚部片が出土している。おそらく、近世の盛土であろう。

7世紀代の高坏は南側の台地上の集落遺跡から転落してきたものであろう。近世には、国分市場周辺の集落が拡大するため、近世の遺物は、この集落の拡大に伴うものであろう。調査では、これらの遺物が出土しているが、造構は認められなかった。

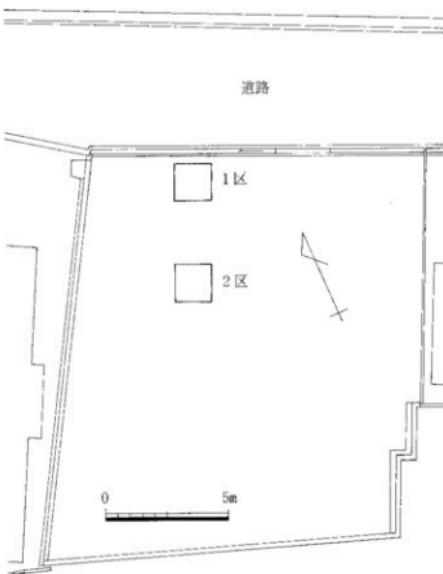


図-27 調査区位置図

## 2002-3次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺1丁目2050-7、2051-13
- ・調査期間 平成14(2002)年3月5日
- ・調査面積  $2.3\text{m}^2 / 143.12\text{m}^2$
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は、史跡田辺庵寺のすぐ東に隣接する地にある。そのため、何らかの寺院関連の遺構・遺物が出土するのではないかと注意をはらって調査に着手した。

調査は、調査対象地の北西部、田辺庵寺に近い位置に1.5m四方の調査区を設定して実施した。地表下40cmまでは褐色粘質土、その下層に灰褐色粘質土、その下層に青灰色砂質土がみられる。褐色粘質土には、周辺で普遍的にみられる地山である黄褐色粘質土がブロック状に混じっている。青灰色砂質土は湿地性の堆積土と思われ、池、あるいは沼状の地形に伴うものと考えられる。いずれの層からも針金やコンクリート塊がみられ、すべて現代の盛土であると考えられる。調査では、青灰色砂質土上面、深さ50cmまで調査区全体を掘り下げ、さらに調査区南壁に沿って30cmの幅で青灰色砂質土を65cmの深さまで掘り下げたが、状況に変化はなかった。

史跡田辺庵寺の位置する春日神社境内には、現在も池がみられる。今回の調査地も、土壙をみると、池状の湿地を、現代に至って宅地造成する際に埋め戻したものではないかと判断される。今後の周辺の調査に注目したい。



図-29 調査区位置図

## 2002-4次調査

- ・調査対象地 柏原市国分本町7丁目1969-1、1969-2
- ・調査期間 平成14(2002)年3月20日
- ・調査面積  $2.3\text{m}^2 / 233.82\text{m}^2$
- ・調査担当者 安村俊史

調査地は田辺遺跡の東端に位置し、さらに東には田辺古墳群・墳墓群が存在した地にある。

調査は、調査対象地の北東部に1.5m四方の調査区を設定して実施した。その結果、地表下10~25cmで黄褐色粘質土の地山に至り、地山面を精査したが、遺構は確認できなかった。もちろん遺物も出土していない。過去に、かなりの削平を受けているようである。

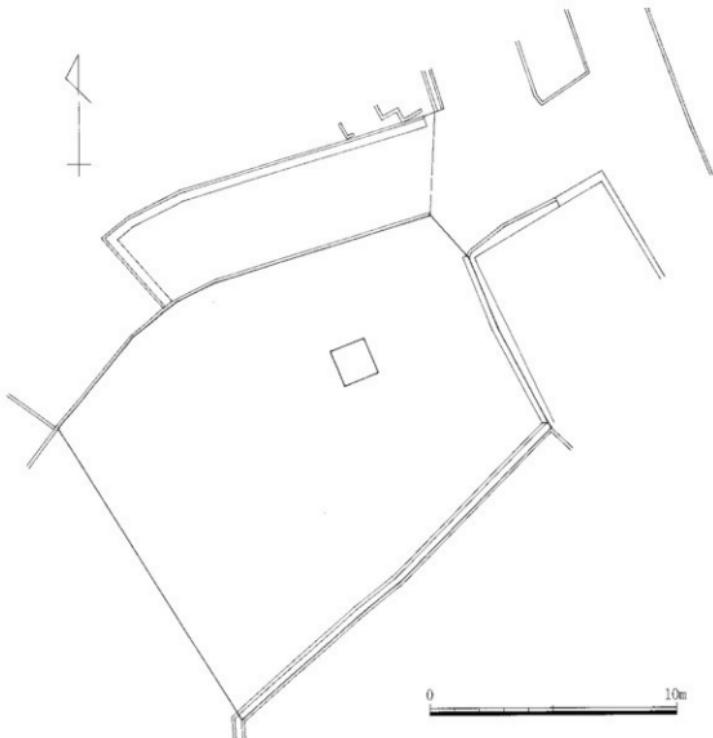


図-30 調査区位置図

## 2002-5次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺1-2027-4
- ・調査期間 平成14(2002)年12月20日
- ・調査面積 1.5m<sup>2</sup>/686.53m<sup>2</sup>
- ・調査担当者 石田成年

対象地は史跡田辺庵寺の北方すぐにある、さらに田辺池が東から北にかけて接する。現状は宅地で、既設建物が撤去されて後に調査に着手した。

対象地の中央南寄りに東西300cm、南北100cmの調査区を設定し、人力により現地表下30cmまで掘削した。表土直下はオリーブ黄色を呈する粘質土で、地山であると思われる。既に削平等の改変を受けていると思われ、既設建物の排水施設が地山を穿っている。遺構、遺物とも認められなかった。



図-31 調査区位置図 (S = 1/500)

# 図 版

図版 1



大県遺跡 2002-2次調査地（北から）



同調査区

図版2

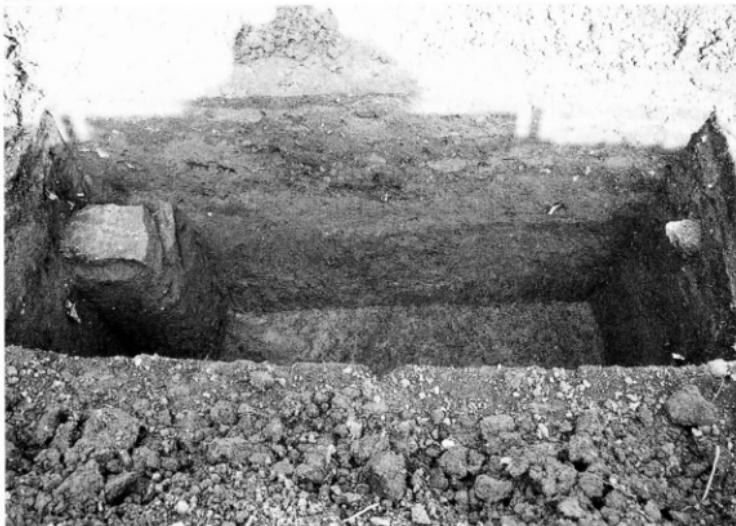


安堂遺跡2002-1次調査区

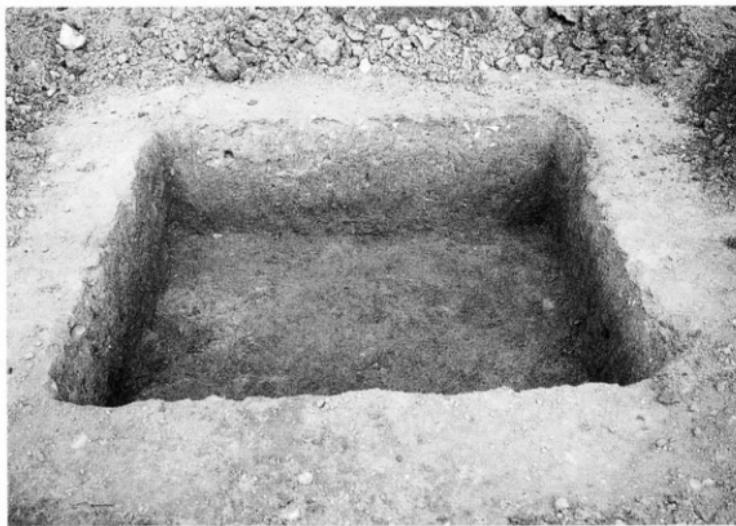


安堂廃寺2002-1次調査地（南から）

図版3



安堂廃寺 2002-1次調査区（1区）



同（2区）

图版 4

安堂廃寺 2002-1  
対象地内 磂石 1



同礎石 2



出土瓦片



図版5



玉手山遺跡 2002-1次調査地



同調査区

図版6



玉手山遺跡 2002-2次調査地（後方は玉手山1号墳）

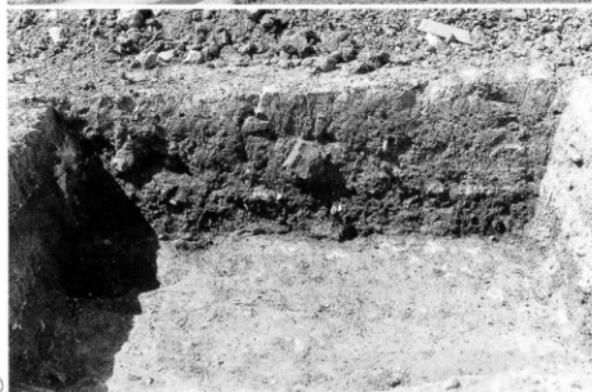


同調査区

図版 7



原山遺跡2002-2  
調査対象地



同調査区土層（北）



同調査区土層（東）

図版8



原山遺跡2002-3  
調査対象地



同調査区土層（北）



同調査区土層（東）

図版9

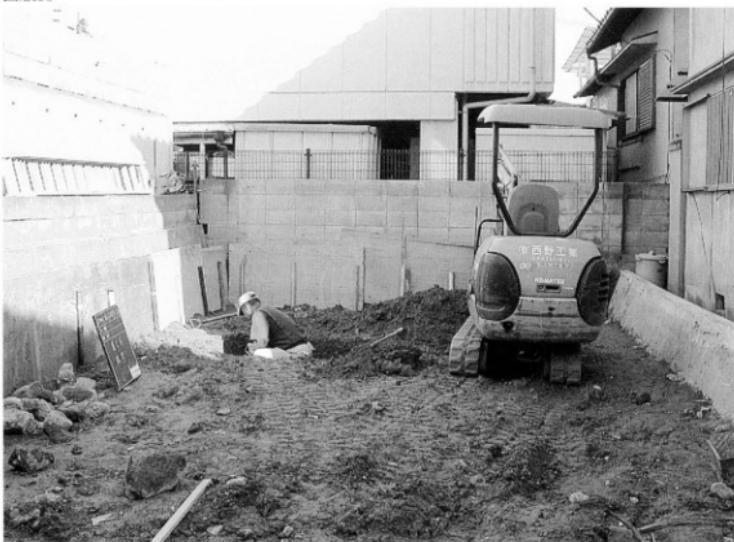


原山遺跡2002-4次調査地（東から）



同調査区

図版10



原山廃寺 2002-1次調査地（南から）



同調査区

図版11



円明遺跡 2002-1次調査地（北から）



同調査区

图版12



田辺遺跡 2002-1次調査地



同調査区

図版13



田辺遺跡 2002-2次調査地

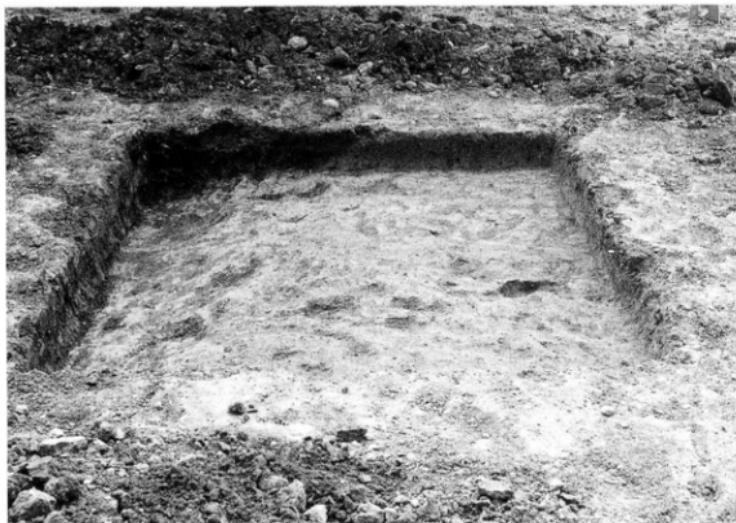


同調査区

図版14



田辺遺跡 2002-3次調査区



田辺遺跡 2002-4次調査区

図版15



田辺遺跡 2002-5次調査地（南から）



同調査区

## 報告書抄録

ふりがな	かしわらしまいぞうぶんかざいはつくちょうさがいほう						
書名	柏原市埋蔵文化財発掘調査概報 平成14(2002)年度						
副書名							
卷次							
シリーズ名	柏原市文化財概報						
シリーズ番号	2002-I						
編著者名	安村俊史、桑野一幸、石田成年						
編集機関	柏原市教育委員会						
所在地	〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1-43 電話0729-72-1501						
発行年月日	平成15(2003)年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯	東経	調査期間 (開始・終了)	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
大県	平野1丁目	27221 OG 2002-2	34°35'25"	135°37'55"	H14.10.10 H14.10.10	1.44	個人住宅
安堂	安堂町	27221 AD 2002-1	34°34'31"	135°38'09"	H14. 2.19 H14. 2.19	2.30	個人住宅
安堂廃寺	安堂町	27221 ADT 2002-1	34°34'34"	135°38'07"	H14. 1. 9 H14. 1.10	5.00	個人住宅
宝手山	片山町	27221 TY 2002-1	34°33'50"	135°38'11"	H14. 2.18 H14. 2.18	2.30	個人住宅
	片山町	27221 TY 2002-2	34°33'54"	135°38'06"	H14. 3.14 H14. 3.14	2.00	個人住宅
原山	旭ヶ丘3丁目	HY 2002-2	34°33'16"	135°38'17"	H14. 8. 1 H14. 8. 1	2.25	個人住宅
	旭ヶ丘3丁目	HY 2002-3	34°33'18"	135°38'18"	H14. 8. 2 H14. 8. 2	2.25	個人住宅
	旭ヶ丘3丁目	HY 2002-4	34°33'22"	135°38'19"	H14.12. 2 H14.12. 2	2.56	個人住宅
原山廃寺	旭ヶ丘3丁目	HYT 2002-1	34°33'22"	135°38'20"	H14.12. 3 H14.12. 3	1.50	個人住宅
門前	門前町	EM 2002-1	34°33'24"	135°37'37"	H14.10.28 H14.10.28	1.00	個人住宅
田辺	田辺2丁目	TB 2002-1	34°33'19"	135°38'50"	H14. 2. 6 H14. 2. 6	2.30	個人住宅
	国分市場1丁目	TB 2002-2	34°33'57"	135°38'45"	H14. 2.15 H14. 2.15	4.50	個人住宅
	田辺1丁目	TB 2002-3	34°33'24"	135°38'45"	H14. 3. 5 H14. 3. 5	2.30	個人住宅
	国分本町7丁目	TB 2002-4	34°33'31"	135°38'49"	H14. 3.20 H14. 3.20	2.30	個人住宅
	田辺1丁目	TB 2002-5	34°33'28"	135°38'44"	H14.12.20 H14.12.20	1.44	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大 県	集 落		なし	なし	
安 堂	集 落	古墳～近世	なし	須恵器、土師器	
安 堂 麻 寺	寺 院	古墳～近世	なし	須恵器、土師器、瓦器、陶磁器、瓦	
玉 手 山	集 落		なし	なし	
	集 落		なし	なし	
原 山	集 落		なし	なし	
	集 落		なし	なし	
	集 落		なし	なし	
原山廃寺	集 落		なし	なし	
円 明	集 落		なし	なし	
田 迂	集 落		なし	なし	
	集 落	古墳～近世	なし	土師器、陶磁器、瓦、銭貨	
	集 落		なし	なし	
	集 落		なし	なし	
	集 落		なし	なし	

## 柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

平成14年（2002）年度

編集・発行 柏原市教育委員会

大阪府柏原市安堂町1番43号

発行年月日 平成15年3月31日

印 刷 ㈱近畿印刷センター

